

令和2年

白石市長選挙公約

山田裕一

(令和2年10月18日)

※選挙期間中に印刷して配布することは、公職選挙法で禁じられております。

MISSION1 市民の健幸推進

■新型コロナウイルス対策をはじめとする感染症対策の強化

新型コロナウイルス感染症対策を最優先に取り組みます。感染拡大防止を徹底しながら、感染者が出た際の対応の強化、衛生環境の充実を図ります。

受験を控えた中学3年生のみを対象としたインフルエンザワクチンの接種助成事業を、生後半年から中学3年生まで対象を拡充させます。

■刈田病院での周産期医療（産科）復活と診療科の充実

毎月約1億円の赤字経営を続ける刈田病院の改革に取り組みます。現在、進められているみやぎ県南中核病院との連携・機能分化を強力に推進し、刈田病院を必ず守ります。

刈田病院の経営形態を、総務省通知にある、行政のチェック体制が機能しながら民間の力を活用できる「公設民営」に移行し、行政だけではできない充実したサービスの提供やコスト削減に取り組みます。具体的に、周産期医療（産科）を復活させ、安心して出産できる環境を整備します。現在、常勤医がゼロである整形外科と麻酔科の常勤医を確保し、救急医療体制を堅持します。

白石市医師会との連携を進展させ、刈田病院を核とした地域全体の医療体制を強化します。

■産学官連携による全世代の健康増進と健康寿命延伸施策の充実

本年3月に仙台大学と包括連携協定を締結しました。この協定により、健康づくり・健康増進に関すること、スポーツ振興・体力向上に関することなどの分野で相互連携と協働による活動が推進されます。

産（民間企業）・学（大学などの研究機関）・官（行政）の連携を推進し、市民の健康増進と健康寿命延伸に取り組みます。

■パークゴルフ場整備とニュースポーツの普及推進

市民の健幸推進には生涯スポーツが重要であると考えます。例えば、パークゴルフは老若男女が気軽に楽しめ、愛好者が増加しているスポーツです。新たに造成する工業団地周辺に、「緑地」の機能をあわせ持ったパークゴルフ場を整備します。

さらに、ニュースポーツの普及を推進し、市民一人ひとりが健幸や豊かな生活を実感できる環境をつくります。

※パークゴルフとは…北海道で誕生したニュースポーツで、クラブ1本とボールがあれば初心者でも簡単にプレーが楽しめる、ゴルフに準じたスポーツ。

※緑地とは…製造業などの業種では、一定の規模以上の面積を持つ工場に対し、敷地面積に応じた「緑地」を設けることが義務付けられています。

パークゴルフ場が緑地機能を果たすことで、進出企業は取得用地をフルに活用できます。

MISSION2 子どもは未来の宝

■教育特区や英語特区の取得、義務教育学校の設置を目指し、特色ある教育環境を実現

小中学校の英語特区取得を目指します。小中連携による一貫性を持った英語教育を行ない、豊かなコミュニケーション能力とグローバルな視野を身につけた人材を育成します。

小中学校の義務教育課程を一貫して行なう義務教育学校設置を目指し、子育て世代から選ばれる教育環境を強化します。

現在、実施している学力向上プロジェクトを進展させます。すでに行なっている英語検定補助のほか、漢字検定など各種検定等の補助を行なうことで、子どもたちのチャレンジする心を応援するとともに、基礎学力と知的好奇心の向上を図ります。

■ひとり1台パソコン設置を早期に実現し、ICT教育推進を加速

「ひとり1台端末」と通信ネットワーク構築を早期に実現させます。オンライン教育をはじめICT教育の充実を加速させ、すべての子どもたちに学びを保障できる環境を構築します。

■民間の力を取り入れ、認定こども園の創設と待機児童ゼロを実現

近年、保育園へのニーズが非常に高まっています。民間の力を活用し、幼稚園と保育園の2つの機能（教育と保育）を融合した「認定こども園」を設置します。認定こども園の設置によって小学校へ入学するまでの教育と保育の両方をしっかりと受けることができ、保育園入所を希望する方々の新たな受け皿となることで、待機児童をゼロにします。

■幼児教育の充実

市立幼稚園で実施している延長保育の預かり時間を延長するとともに、新たに夏休み等の長期休暇期間中の預かり保育を実施します。

希望者に対して給食を提供することで、保護者の負担軽減と食育を図ります。

幼児教育を専門とする大学と連携し、エビデンス（科学的根拠）に基づいた教育の充実に取り組みます。

MISSION3 豊かさを実感できるまちづくり

■ふるさと納税を通じた「新たな」自主財源確保と返礼品による地場産業の育成、市民所得の向上

市長就任時の『ふるさと納税』受入額は、年間約 1,100 万円でしたが、令和元年度は、50 倍強の約 5 億 6,400 万円まで増加しました。『ふるさと納税』は地場産品を返礼品とすることで、地域経済の活性化にもつながっています。本市の知名度や魅力を向上させるため、ふるさと納税額 10 億円を目指します。

※ふるさと納税の利点…地方交付税（白石市をはじめ、財政的に余裕のない自治体に国から交付されるお金）交付団体は自主財源を増やしても、地方交付税が減額され、その 25%しか収入増につながりませんが、ふるさと納税は 100%自治体の収入となります。

■名産品や伝統工芸の後継者育成や販路拡充などを支援し、次世代へ継承

この 4 年間で、平成元年に食味日本一に輝いた『白石産ササニシキの復活プロジェクト』や三白野菜などの農産物のブランド化を支援し、一定の成果が得られました。また、平成 29 年には 5 年に一度開催される和牛の全国コンクールである『和牛能力共進会』で白石産の和牛が上位入賞を果たしました。「魅力ある、稼げる」農業・畜産業・酪農となることを目指し、白石産のブランド力と生産者の所得の向上、担い手の育成等を支援します。

うーめん・白石和紙・弥治郎こけし等、「白石には欠かすことができない」「白石ならではの」の伝統産業があります。それらの後継者育成や国内外への PR など継続的に支援していきます。

■「重点 道の駅」を拠点とした防災力の強化とシティプロモーション

昨年の令和元年東日本台風において、本市は観測史上最多の降雨量を記録し、未曾有の大災害となりました。近年の地球温暖化が起因とする強大な台風や大雨から市民の命を守らなくてはなりません。そのためには、さらなる防災力の向上が必要です。そこで、国からソフト・ハード両面から強力な財政支援を受けられる『重点 道の駅』を（仮称）白石中央スマートインターチェンジ周辺に整備し、地域防災計画に位置付けた新たな防災拠点としての機能を持つ道の駅とすることで、防災力の強化を図ります。さらに「重点 道の駅」を最大限に活用し、市内経済活性化とシティプロモーションを強力に推進します。

■「ウィズコロナ」「アフターコロナ」「ポストコロナ」への柔軟な対応

新型コロナウイルス感染症拡大で疲弊した白石市の経済回復に取り組むとともに、「ウィズコロナ」「アフターコロナ」「ポストコロナ」を見据えた社会情勢・ライフスタイル・企業活動の変化に柔軟に対応し、支援していきます。

MISSION4 選ばれる白石市を実現

■（仮称）白石中央スマートインターチェンジの早期完成

本年9月8日に国・県・ネクスコ東日本・地元関係者による地区協議会を開催し、実施計画書（案）が承認されました。国による事業化採択までカウントダウンとなっています。『（仮称）白石中央スマートインターチェンジ』の事業化を実現し、早期完成を目指します。

■新たな工業団地造成と企業誘致による経済発展

スマートインターチェンジ周辺に新たな工業団地を造成し、企業誘致を加速させることで、「企業進出→雇用増→税収増→市民サービスに還元」の好循環を生み出します。白石市のトップセールスマンとして企業誘致に積極的に取り組むとともに、創業支援や既存中小企業の支援を行ない、働く場所や雇用を創出します。

■都市計画街路事業を推進し、都市ネットワークと投資環境の充実

現在整備を進めている、東町地区内の都市計画道路「中河原白石沖線」の早期完成を図ります。道路の拡幅と歩道を設置することで、自動車交通が分散化・円滑化され、東町交差点や田町交差点などの渋滞の緩和と歩行者の安全向上を実現します。

計画決定から長期間が経過している未着工事業の見直しを図ります。社会経済情勢と将来目指すべき都市構造を踏まえ、都市計画道路の適時適切な見直しと推進を図り、都市ネットワークとそれに伴う社会インフラを充実させ、企業の投資環境の充実を図ります。

■将来を見据えた基本計画の策定

白石市の最上位計画である『第6次白石市総合計画』を策定します。地域の実情を的確に分析し、住民の意向を十分にくみ取った上で地域の将来像を描いていく客観性と科学的根拠をもった計画を作ります。

福祉分野において最上位計画となる『白石市地域福祉計画』を新たに策定します。地域福祉推進の主体である市民の皆さまや関係機関、専門家等と協議して計画を策定し、全国に誇れる「地域共生社会の実現」を目指します。

■行財政改革の加速

白石市の財政は年々厳しさを増しています。これまで以上に事業の選択と集中を行ない、限られた財源を効率的に配分し、施策を展開します。

行政のデジタル化は避けては通れません。行政手続きのオンライン化やRPA、AIを活用し、白石市のDXを推進します。そのことによって、住民サービスと利便性の向上、職員の生産性向上と業務の効率化を図ります。

※RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）とは… これまで人が行っていた入力作業などの定型業務をコンピューターによって自動化させる技術。

※DX（デジタル・トランスフォーメーション）とは… デジタルテクノロジーを用いて新たな価値を創造し、人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させること。

■シビックプライド（ふるさとへの愛情や誇り）の醸成

人口減少時代に突入した日本が今以上の成長を追求するのであれば、今後ますます海外への進出、海外との交流を進めていかなければなりません。世界を知るには、自国やふるさとの歴史・文化を知らなければなりません。ふるさとの現状やその背景を知ることが、シビックプライドの醸成につながります。同時にシビックプライドの醸成は、「白石のために貢献したい」「白石に住みたい・住み続けたい」との思いや、例えば白石を離れ、全国各地や世界で活躍する場合にも、ふるさと白石で幼少期や青年期に培った歴史や文化、地域とのつながりが大きな自信となり、心豊かな逞しい人材へと成長します。学校教育、生涯教育、地域活動等を通じてシビックプライドの醸成を図ります。

結びに

「白石再起動」加速中！

4年前、かつて仙南の中心地・仙南の雄として輝いていた白石を取り戻そうと「白石再起動」を掲げ、白石市長に就任させていただきました。現在、我が国は少子高齢化とそれともなう人口減少、人口の一極集中など社会情勢の変化に起因する大小様々な課題が山積しており、白石市も例外ではありません。

そのような中、歴史・文化・自然・地域への愛着・誇り等、社会情勢の変化に関わらず、変わらないもの・変わってはいけない多くのものが多く存在します。一方、近年の社会情勢の変化はかつてないほど急激かつ大きくなっており、様々な場面でこれまで通りのやり方や現状維持が通用しなくなっています。白石市も守るべきものは守りながら、柔軟かつ大胆に変革をしていかなければ、かつての輝きを取り戻すことはなく、衰退の一途をたどるばかりです。時代に取り残されず、将来にわたり「持続可能な白石市」となるためには、変化を恐れず、積極果敢に改革に取り組まなければなりません。

市長就任後、市議会議員時代にも増して、国会議員・首長・地方議員・官僚・経済界等、多くの方とご縁をいただき、つながりを築くことができました。あらゆるネットワークを最大限に活用するとともに、自らも努力を惜しまず、ここに掲げた公約の実現に全力を尽くしてまいります。

この4年間、「問題から逃げずに市政課題を先送りしない、子どもたちや孫たちに我々世代のツケを残さない」という思いを持って市政運営にあたってきました。時には非常に厳しい判断をせざるを得ないこともありましたが、これからも「将来世代にツケは残さない」という思いはぶれずに、1期目の取り組みを継続・発展させていきます。歩みを止めるわけにはいきません。「白石再起動」を加速させ、明るい未来への突破口を拓き、将来にわたって持続可能な白石市、選ばれるまち白石市をつくることをお約束いたします。